

1 「U-22プログラミング・コンテスト2015」コンテストを終えて

受賞者の皆様からコンテストに参加した感想や、今後の目標等について、コメントをいただきました。

あわせて表彰式の際のプレゼンターとの写真も掲載しておりますので是非ご覧ください。

なお、今回はその中から、経済産業大臣賞受賞者のコメントをご紹介しますいただきます。

▼制作者名：KBC射的屋／作品名：すまっとシューター

本コンテストに応募してみようと思ったきっかけは、私たちの技術がどこまで通用するのか腕試しをしたいと思ったからです。そのため、経済産業大臣賞という大変名誉な賞をいただけたのはとても嬉しく思います。

すまっとシューターはPCモニターを共有してスマートフォンで遊ぶ3Dマルチプレイゲームですが、専用アプリなどインストール不要で遊べることや、プラットフォームに依存せず誰でも参加できる技術が他の分野でも幅広く応用できることが評価してもらえました。

コンテストに応募する際に気を付けたことは、プログラムの設計です。チーム開発ということもあり、誰が見ても見やすいコードを意識するのは勿論のこと、仕様変更や機能追加にも柔軟に対応出来るように多態性や拡張性を持たせるようにしました。また、クライアントとサーバーで行われる通信はそれぞれで処理を行うようにし、リアルタイム通信でも常に整合性が取れるように注意しました。すまっとシューターではクライアントにHaxe(JavaScript)、ライブラリにthree.js、サーバーにJetty、リアルタイム通信にWebSocket、DBにMySQLを使用しています。このうち、Haxe・three.js・Jetty・WebSocketは初めて使用しました。ですが、仕組み自体は他の言語とあまり変わらないため、調べることが多くても習得自体に時間はあまりかかりませんでした。IT業界は新しいことが次々と作られていく世界なので皆さんもぜひ新しい技術に挑戦してみてください。

▼制作者名：藤坂 祐史／作品名：Recture～復習しやすい授業記録アプリ～

この度は経済産業大臣賞をいただき、大変嬉しく思います。名前を呼ばれたときは、まさかという驚きと嬉しさを感じました。

作品自体は昨年の冬頃に大方できていたのですが、App Storeには審査が通らず、バグ等の修正がなかなか進まないまま、使うのは自分だけという状態でお蔵入りしかけていました。

そんな中、U-22プログラミング・コンテストの案内を見て一度出してみようと思い、バグ修正を急ぎ、いくつか機能を追加して応募してみました。「通らなそうだしいいや」と諦めていたら今がなかったと思うと、「ダメ元でやってみる」大切さを感じます。

最終審査会では、審査委員の方々が、良いポイント、改良のためのアイデア、広げる先なども含めしっかりとフィードバックをくださり、見学者の方からも「使ってみたい」「便利」だという声もいただけて、自分だけ使うのではなく、多くの人に使ってもらえるようにもっと進めていこうと思えました。

懇親会でも、他の作者の皆さんや最前線で活躍されている方とお話でき、刺激を受けて、良い競争心が生まれました。ここでの出会いもありがたいものだと感じています。また、会社見学やCEATECでのプレゼンなど、入選者特典でも貴重な経験ができました。

U-22プログラミング・コンテストは、作ったものを評価してもらえて、さらに色々なものを得られる素晴らしい機会もあるので、ぜひ応募してほしいと思います。

来年度もまだ応募ができる年齢なので、考えを練ってもっと良いものを出したいと思います。ありがとうございました。

▼制作者名：清水大輝／作品名：Streem

今回、このコンテストで経済産業省をいただくことができ、とても嬉しく思っています。

今回作成したStreemはキーワードからTwitter、YouTubeといった様々なメディアの情報を同時に見ることができるiPhoneアプリです。自分の力で独自のキュレーションアプリを開発したいという思いがこのアプリの開発につながりました。開発を進めていく中で様々なアイデアを思いつき、そのアイデアを実装させていくことがとても楽しかったです。個人での開発であったためデザインや機能なども含め、全てを自分でしなければならなかったことが大変でした。

最終審査会は審査員の方々からフィードバックをいただいたり、同じ年代の開発者の方々と交流することができたため、とても有意義な時間となりました。

▼制作者名：中馬慎之祐／作品名：allergy

経済産業大臣賞という大きな賞をいただき、本当にありがとうございました。

食物アレルギーの僕たちが困っているということを、審査員の方々＝アレルギーのない人にも理解してもらえて、「allergy」は必要なアプリだ！と評価していただけたことが、一番嬉しかったです。受賞をきっかけに、世界中の食物アレルギーの人に「allergy」を知ってもらい、たくさん使ってもらって、生の声をまた反映できたらいいな。と思っています。飲食店の人にも、お店で使ってみてもらえたら嬉しいです。

アプリの開発には、翻訳や色々なアレルギーのそれぞれ気をつける点など、沢山の人たちが協力してくれました。経済産業大臣賞をいただいた後、「ほかの言語も協力するよ！」と連絡くれた人もいて、とても感謝しています。僕だけではできないことなので、そうやって支援してくれる人が増えて、「allergy」があれば食物アレルギーの人でも世界中どこにだって安心して使えるような、そんな世の中にできたらいいなと思っています。

最終審査会では、iPhone & Android アプリ・Unity・Mindstormなど僕も開発しているものや、全く知らないものもあり、沢山の先輩たちの作品を見ることができてとても面白かったです。

今の僕にはどうやって作ったらいいか想像もできないようなすごい作品もいっぱいありました。僕もこれからいろいろな技術を頑張って勉強して、また来年もU-22に挑戦したいと思います。

▼その他のコメントや作品概要等詳細は公式Webサイトへ！

<http://www.u22procon.com/>

2

入選者特典：会社見学会について

コンテスト入選者を対象に会社見学会を開催いたしました。その時の様子をWebサイトにUPいたしましたのでご確認ください。

<http://www.u22procon.com/report/fieldtrip.html>

その他、最終審査会の様子や表彰式の様子などもUPされてます。

▼最終審査会の様子

<http://www.u22procon.com/report/final.html>

▼経済産業省内の表彰式

<http://www.u22procon.com/report/meti.html>

2015年の実行委員・審査委員から、終了後のメッセージをいただきました。その中から各委員長のコメントを掲載いたします。

▼実行委員長：青野慶久（サイボウズ株式会社代表取締役社長）

今年のU-22プロコンも楽しませていただきました。
今年のトピックを挙げると、「プレゼンうますぎ」「地方の逆襲」「小学生の進撃」「ロボットとの融合」「伝統のデジタル化」「モバイルファースト」「できるだけ作らない高速開発」など、ひとつひとつが味わい深いものであり、若い世代が新しい時代を作るのだと改めて確信しました。
来年も新しい作品を見せてくれることを楽しみにしております。
そして、ソフトウェアで世界を変えていきましょう！

▼審査委員長：筧捷彦（早稲田大学理工学術院 基幹理工学部情報理工学科 教授）

今年は小学生がめざましい活躍をしました。3人の小学生が最終審査会まで残り、その中の一人が経済産業大臣賞を受賞しました。これに刺激されて、多くの若い人たちが来年以降続々と挑戦してくれることを期待しています。
さらに特徴的だったのは、それぞれの目指すところがより広い世界に広がっていることです。身の回りの人たちだけでなく、日本中の人に使ってもらいたい、いや、それこそ世界中の人に見てもらいたい、使ってもらいたいという思いが伝わってくる作品がいくもありました。世界に羽ばたく挑戦が続くことを期待します。

▼その他委員コメントは下記URLを参照ください。

<http://www.u22procon.com/report/committee.html>

事務局のつぶやき |

先日実行委員会でU-22プロコン2015の振り返りが行われました。その中で来年のコンテストをより良くするため、たくさんの意見をいただきました。現在は来年に向けてどのようなコンテストにしていくか、内部で検討を進めています。もし皆さんからも、こういったコンテストだったら良いな、というような要望やアイデアがございましたら、事務局までご連絡ください。
来年また新たな作品に出会えることを楽しみにしております。

※U-22プロコンメルマガは最新情報をお届けします。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
U-22プログラミング・コンテスト運営事務局
〒107-00 東京都港区赤坂1-3-6 赤坂グレースビル4F
TEL : 03-6435-5991 FAX : 03-3560-8441 E-mail : u22-info@csaj.jp
公式Webサイト <http://www.u22procon.com/>